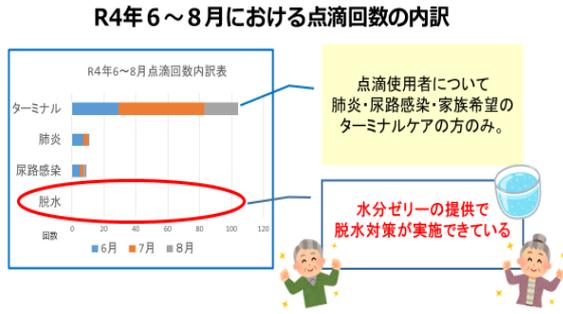


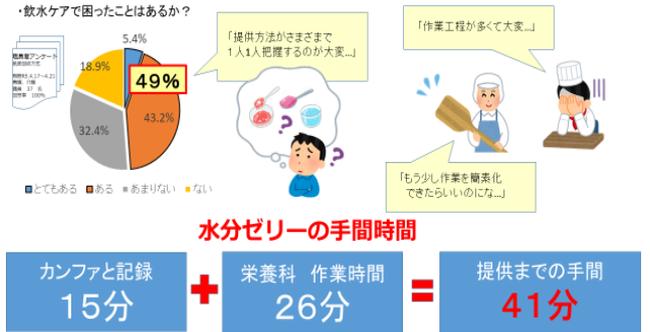
演題名	脱水予防効果の水分ゼリーにおけるコストの適正化		
施設名	介護老人保健施設オアシス21	(ふりがな) 発表者(職種)	はせ ななこ 長谷 奈々子(管理栄養士)
(ふりがな) チーム名	ろうけん やくわり なん 老健の役割って何だろうパート6		
分類	④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの		
取組種別	問題解決型		
改善しようとした 問題課題	近年では北海道でも夏は猛暑日が続き、今まで以上に高齢者の水分摂取の重要度が高まってきている。オアシス21では、H27年度のTQMで水分ゼリーを開発しており、水分ゼリーの提供で脱水対策はできていたが、提供までに手間時間が発生しているという事が問題にあがった。そのため、安全・コスト・親身な対応の視点から、水分摂取におけるケアを見直す事を目的として活動に取り組んだ。		
改善の指標と その目標値	(指 標) 水分ゼリーにおける手間コスト(時間) (目標値) 41分 → 20分		
実施した対策	1. 水分ゼリーのマニュアル作成 2. 高齢者の嚥下の疑似体験 3. 水分ゼリーの満足度を利用者へアンケート調査(試食会) 4. 水分ゼリーの味の種類を増やす 5. 他の水分ゼリーを検討		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) 水分ゼリーにおける手間コスト(時間) 41分 (実施後) 水分ゼリーにおける手間コスト(時間) 18分		
歯止めと 標準化	(標準化) 口腔ケア委員会で水分ゼリーのマニュアル見直し1回/年 栄養科で利用者満足度調査実施1回/年 (教 育) 口腔ケア委員会で水分ジュレのマニュアル理解の研修実施1回/年 新人研修で水分ジュレの特性とマニュアルの説明実施 (管 理) ミールラウンド時に水分ジュレの必要量確認		
活動の種類 ※複数選択可	③テーマに合わせて形成したチーム活動	チーム メンバー (職種)	1 長谷奈々子 管理栄養士
活動の場 ※複数選択可	①診療部門 ②支援部門 ③管理部門		2 桑原千秋 看護師
活動期間	R5年4月1日～10月31日		3 山本美沙 介護福祉士
リーダー名 (職種)	長谷 奈々子(管理栄養士)		4 霜田洋平 介護福祉士
活動回数	10 回		5 奥本ゆかり 介護福祉士
			6 糟谷 三千子 介護福祉士
		7 山下 美穂 介護福祉士	
		8 高橋 真衣 言語聴覚士	
		9 小田 敏江 介護支援専門員	

【現状把握】

現状把握



現状把握



【目標設定】

目標設定

なにを	水分ゼリーにおける 手間コスト(時間)の削減
いつまでに	令和5年10月30日まで
どうする	41分→20分

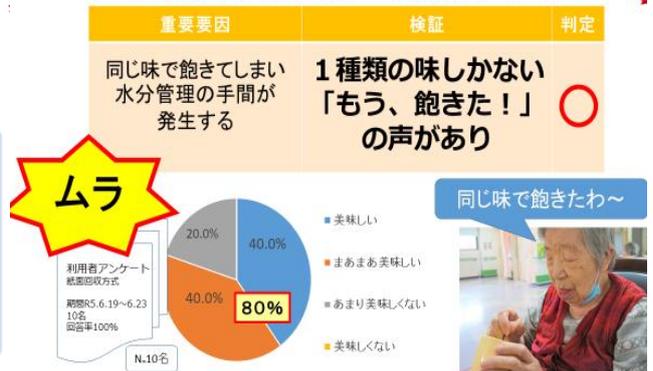
(手間時間は作業工程や飲水介助について業務改善すれば半減できると考えTQMメンバーにて目標を設定しました。)

【要因解析】

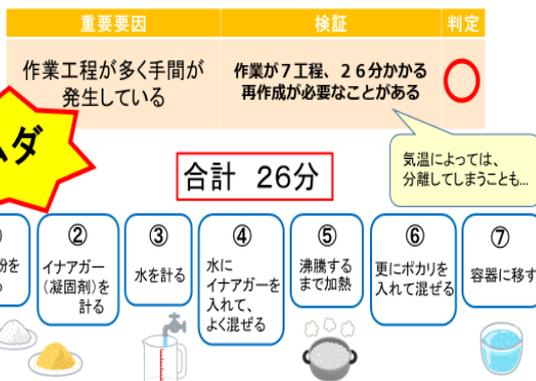
重要要因の検証① 介護ケアのコスト



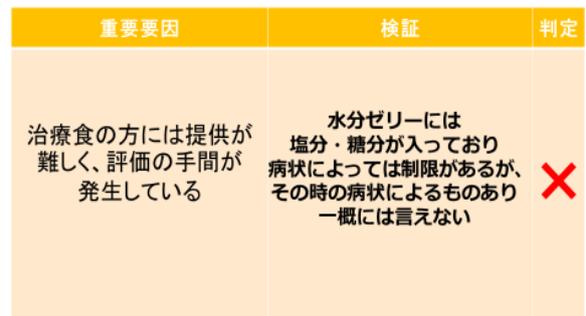
重要要因の検証② 利用者コスト



重要要因の検証③ 栄養科コスト



重要要因の検証④ 体制コスト



【対策の立案と実施】

対策の立案

◎: 5点 ○: 3点 △: 1点 15点以上を対策する



特性	重要要因	一次対策	二次対策	三次対策	効果	実現	持続	経費	点数	採否
なぜ水分ゼリーには手間がかかるのか (時間)	水分ゼリーの提供方法が複数あり手間が発生	介助方法がわかりづらい	介助方法を単純化する	①水分ゼリーのマニュアル化	◎	◎	○	◎	18	○
				②職員の疑似体験	◎	◎	○	◎	18	○
	同じ味で飽きる為水分管理の手間が発生する	飽きない味を考える	水分ゼリーの味の評価をする 味を増やす	③利用者アンケート試食会	◎	◎	○	◎	18	○
				④毎日、味を変える	◎	○	◎	◎	16	○
	作業工程が多く手間が発生している	作業工程を減らす	作業工程を見直す	⑤中身の1つボカリスエツを減らす	△	◎	△	◎	12	×
				⑥他の水分ゼリーを検討する。	◎	◎	○	◎	18	○

対策実施



なぜ	いつ	どこで	誰が	何を	どうする
①職員の不安軽減	7/18~7/21	施設内	高橋ST・桑原NS 口腔ケア委員会	水分ゼリーのケア方法	マニュアル作成
②職員に知ってもらうため	7/24~7/28	施設内	山下介護福祉士 奥本介護福祉士	高齢者の嚥下を	疑似体験する
③水分ゼリー摂取時の課題を理解するため	7/3~7/7	施設内	高橋ST 小田ケアマネ 口腔ケア委員会	水分ゼリーの満足度を	利用者アンケート調査(試食会)をする
④美味しく水分をとってもらうため	8/1~8/30	施設内	長谷管理栄養士 霜田介護福祉士	水分ゼリーの味の	種類を増やす
⑤対策しない ×					
⑥作業工程を減らすため	8/1~8/30	施設内	長谷管理栄養士 霜田介護福祉士 口腔ケア委員会	他の水分ゼリーを	検証する

対策実施



対策実施



- ①水分ゼリーのマニュアル作成 ②高齢者の嚥下の疑似体験(口喝状態)



- ③利用者へ味・課題の実態アンケート調査



対策実施



- ④水分ゼリーの味を増やす ⑥他の水分ゼリーを検証し水分ジュレが誕生

1種類 → 4種類

作業工程 7工程 → 5工程  
作業時間 26分 → 17分

**水分ジュレの誕生!**

ポイント

- 時間が経っても離水しにくい!
- 再結着性(まとまり)がある!
- よくかき混ぜると、とろみ状になる!

【効果の確認】

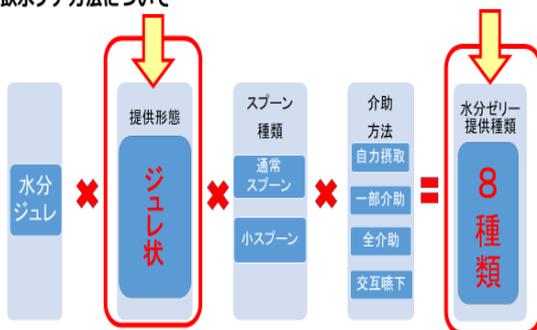
効果の確認 ○有形効果



効果の確認 ○有形効果



飲水ケア方法について



カンファと記録 15分 + 栄養科 作業時間 26分 = 提供までの手間 41分

↓

カンファと記録 1分 + 栄養科 作業時間 17分 = 提供までの手間 18分

## 【効果の確認】

### 効果の確認 ○無形効果

・飲水ケアで困ったことはあるか？



ジュレの方が  
安全に飲み込み  
やすくていいね！

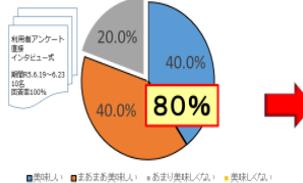


安全意識向上！



### 効果の確認 ○無形効果

利用者満足度調査 対策前



満足度 80% → 100%へ  
向上した！

利用者満足度調査 対策後



味が増えて  
飽きないね  
うれしい！



### 効果の確認 ○有形効果

・点滴費用の削減

点滴1回の金額 (輸液・商品等) 747円 × 削減できた点滴回数 (R5年6月～8月の1か月平均) 31回

1か月あたり23,157円  
点滴費用削減！

・材料費の削減

水分ゼリー 22.65円 → 水分ジュレ 15.45円

1杯(150ml)あたり7.2円の  
材料費削減に成功！

1か月では、8,640円の削減！  
(現在1日あたり約40杯分提供の為)

1か月あたり31,797円の削減に成功！



### 効果の確認 ○波及効果

・カンパレンスや記録時間が減少  
⇒利用者の家族面会に時間をあてることが出来た。



日勤タイムスケジュール 一部抜粋

15:00～	体交活動(楽乗2) [あやつおおあしたご利用者] 涼がやつのない方も日勤体交 あやつおおあセッション 体交準備
15:50～	体交終了
16:00～	運営委員会(一週おき) 一時間10分 優先の急ぎをあげる 一週間ごとに行き行う エアーロック活用
16:30～	・最後整理、エアーロックを所定の 位置に戻し、消毒を行う
17:00～	・緊急対応記録簿添
17:15～	退勤



## 【標準化と管理の定着】

### 歯止めと標準化

目標 なぜ	項目 何を	担当者 誰が	場所 どこで	方法 どのように	期間 いつ
標準化	水分ジュレのマニュアル	口腔ケア委員会	棟内	見直し	年1回 10月
	利用者満足度調査	栄養科	棟内	アンケートを実施	下期2月
教育	職員研修	口腔ケア委員会	棟内	水分ジュレのマニュアル理解	年1回 11月
	新人教育	各主任	棟内	水分ジュレの特性とマニュアル の理解	入職時
管理	水分ジュレの必要量	栄養科	棟内	ミールラウンド時	毎日



### 歯止めと標準化の評価



## 【反省と今後の進め方】

### 反省と課題

手順	よかった点	わかった点	今後の進め方
テーマの 選定	昨年の課題に取り組み、H27年に開発した水分ゼリーを法人テーマのコスト面から見直すことができた。	脱水の視点で話し合いをしたため テーマ選定がよかったよかったです。	勉強会に参加して理解を深める。
現状把握と 目標設定	脱水者の点滴施行者が少ないことが わかり、水分ゼリーの効果を知れた。	点滴の内訳を出すのに時間がかかった。 目標設定の単位を決めるのが難しかった。	管理特性を周知して 目標設定する。
活動計画の 作成	それぞれの役割・期間が明確になった。 ラインワークスを活用し参加率が向上した。	出席者に偏りが出てしまっていた。	今後もラインワークスを活用して 全員が同じ情報を共有できるよ うにしたい。
要因の解析	要因分析を4項目からした各項目(コ ストの手間)別ごとの解析をした。	対象者が少なくアンケートの内容が薄かっ た。	今後はより多くのご利用者様に 回答していただく。
対策の検討と 実施	マニュアルを作成して水分ゼリーの提供 の仕方が統一できた。	新しい水分ジュレに移行するまでに一か月 ほど時間がかかってしまった。	口腔ケア委員会と連携し 活動計画にのりて活動していく。
効果の確認	手間の時間を短縮でき目標達成できた。 タイムナールのご利用者様にも提供できるよ うになった。	有形効果の時間を金額にするのが難し かった。	職員の理解度を勉強会後 確認していく。
標準化と 管理の定着	各々の役割が明確になり定着化が図れた。	主任業務が増えた。	各自で自主的に研修できる システムを構築していく。



### まとめ

理念をもとに、8年前から提供し続けていた水分ゼリーを見直すことができた。試食会やアンケートなどで利用者さんの声を聴くことができ貴重な活動でした。今後も安全、経営、親身な対応の取り組みをチームで積極的にしていきたいと思えます。

オアシス21TQM

